

# 大川水系の特徴

静岡県河川審議会  
(平成28年度第2回)  
大・沢海・井田大―資料―5-1

## 治水

- 集落に通じる主要道路は河口付近で河川を横断しており、津波や洪水による水害発生等に伴う、交通遮断による影響は大きい。
- 流域の約92%を占める山地には、火山由来の地質が多く分布しており、土砂生産の活発な流域である。
- 谷底平野の入口付近では堤防河川の形状となっており、左岸下流に広がる市街地は洪水時の災害リスクが高い。
- 昭和30年代の災害を受け整備された河川断面は満流で概ね年超過確率1/30程度の能力があり、近年大きな浸水被害の報告はない。
- 戸田地区では少子高齢化が進む一方、近年の観光施設により観光客等は増加する傾向にある。
- 第4次地震被害想定において河口付近では現堤防より高い津波の来襲が想定されており、谷底平野の海岸線には住宅や旅館が集中していることから、津波対策においては、まちづくりとの調整が重要となる。

## 環境

- 下流では、下水道が整備されるなど、水質の悪化は確認されていない。
- アユが遡上する河川であり、上流域にアマゴが確認されるなど、上流から河口域にかけてそれぞれの生息環境に適して多様な種が確認されている。
- 住民による河川清掃等の河川愛護活動がおこなわれている。

## 利用

- 谷底平野の市街地に隣接した水田や畑の灌漑用水として利用されている。
- 住宅地に近い中流域では親水施設や遊歩道が整備されている。

# 沢海川水系の特徴

静岡県河川審議会  
(平成28年度第2回)  
大・沢海・井田大―資料―5-2

## 治水

- 集落に通じる主要道路は河口付近で河川を横断しており、津波や洪水による水害の発生に伴う、交通遮断による影響は大きい。
- 流域のほとんどは山地で、海沿いの狭い平地に住宅や工場が密集している。
- 流域の約97%を占める山地には、火山由来の地質が多く分布しており、土砂生産の活発な流域である。
- 山地から急勾配で海岸まで流下しており、河川断面に満流で年超過確率1/30程度の能力があり、近年大きな浸水被害の報告はない。
- 河川沿いには住宅が密集し、石張りのカミソリ堤防の形状を呈している。
- 古くからの造船所が立地していることから、津波対策においては、地域の社会環境との調整が重要となる。

## 環境

- 下水道は未整備となっている。
- 中流域から下流域にかけて、護床工や落差工の整備が行われているが、限られた生息環境においても、そこに適応した種の生息が確認されている。
- 堤防道路もなく住宅も密集した流路状を呈しているため河川に近付きにくい。

## 利用

- 中下流域では、沿川の集落と川との距離が近く、地域の営みの中に川が流れている。

# 井田大川水系の特徴

静岡県河川審議会  
(平成28年度第2回)  
大・沢海・井田大―資料―5-3

## 治水

- 集落に通じる主要道路は山地から平地へ河川勾配が急変する付近で河川を横断しており、洪水による水害の発生に伴う、交通遮断による影響は大きい。
- 流域の約96%を占める山地には、火山由来の地質が多く分布しており、土砂生産の活発な流域である。
- 山地から急勾配で海岸まで流下しており、河川断面に満流で年超過確率1/30程度の能力があり、近年大きな浸水被害の報告はない。
- 河川沿いには住宅が密集し、石張りのカミソリ堤防の形状を呈している。
- 戸田地区では少子高齢化が進む一方、井田地区の海は透明度が高いことから多くの観光客が訪れ、ダイビングや海水浴に利用している。
- 第4次地震被害想定において河口付近では現堤防より高い津波の来襲が想定されており、河口付近には住宅や民宿が立地していることから、津波対策においては、施設整備と景観の両立が重要となる。

## 環境

- 下水道は、漁業集落排水処理施設が整備されている。
- 常時の流量が少なく、護床工や落差工の整備が行われているが、限られた生息環境においても、そこに適応した種の生息が確認されている。
- 堤防道路もなく住宅も密集した流路状を呈しているため河川に近付きにくい。

## 利用

- 中下流域では、沿川の集落と川との距離が近く、地域の営みの中に川が流れている。